



松柏中学校アーカイブ通信 第32号 2025年1月15日発行

きらめきタイム「アーカイブコース」責任者：山村 好克
(タイトルの背景は旧校舎)

特色ある松柏中の取組「一人一研究発表会」(その1)

愛媛新聞の投書欄に時々、千丈小や松柏中時代の思い出を書かれています。Aさん(1978年度卒)ですが、昨年9月1日の「へんろ道」の最初にこうありました。「子供の頃、夏休みの宿題はとにかく悩ましかった。夏休み帳や読書感想文、水彩画などたくさんあった。一人一研究というものもあった。これは研究テーマを自分で決めねばならず、毎年頭をひねっていた。(後略)」

伊方中教諭Bさん(1979年度卒)も、「一人一研究、あったなあ。」と証言されました。長く続いた松柏中の取組ですが、そのスタートがはっきりしませんでした。(通信第13号、14号)その後、「閉校記念誌」編集のために様々な資料を収集していく中で、発表会を紹介した地方紙の記事を数回分見付け、書かれた文章の内容を点検していくことで、分かったことがありました。今号と次号の2回に渡って、松柏中が誇る独自の取組「一人一研究発表会」を紹介していきます。



鋭い着眼点と高い研究レベルで教育委員会も注目!

1965年9月10日付けの愛媛新聞によれば、まだ松柏中学校、つまり新制中学校が生まれていなかった終戦前後頃に、千丈小学校が理科教育の実験校に指定されていたことに端を発します。松柏中学校が誕生し、千丈小の伝統を受け継ぐ形で1953年(昭和28年)に「一人一研究発表会」がスタートします。

1953年は松柏中学校が千丈小校内から現在の場所に移転し、校舎が完成した年です。新しく誕生した松柏中学校の目玉としてスタートしたのではないかと考えられます。

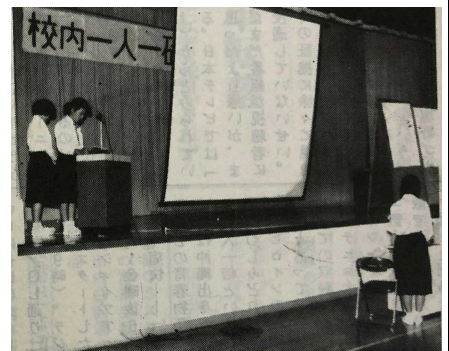
夏休み中に全校生徒が各自(一部はグループ共同)で一つの研究テーマに取り組み、2学期の最初に学級ごとに成果を発表します。学級での代表が全校発表会に出場するという仕組みになっていました。おおよそ、理科の自由研究をイメージしますが、実際、理科を中心にした自然科学分野が中心のようです。作品を製作するという点で、技術・家庭科の分野の研究テーマも見られます。様々な分野での研究とその発表会は高いレベルを誇っていて、八幡浜市の地元紙のみならず、地方紙「愛媛新聞」や「新愛媛」、

時には全国紙の地方欄などでも度々紹介されています。なお、左上の女子生徒が発表している写真は、1963年のものです。松柏中に体育館がなかった時代なので、全校発表会は千丈小の講堂で行っていることが写真から分かります。

研究テーマ紹介

1977年度以降の「学校沿革史」が残っていないため、地元紙の記事で確認をしましたが、最後の発表会は1986年度頃と判断しました。(右の写真は1986年のもので、八幡浜民報より) 34回を重ねた発表会ですが、いくつか研究テーマを紹介します。

- 【1965年度】 「日本は何等国か」
…経済成長、教育水準、道德水準などをもとに、独自の評価を出しています。
「高周波発生装置(の製作)」「人工衛星の研究」
…これらは、日本の高度経済成長時代らしいテーマだと思います。
- 【1985年度】 「オニグモの研究」「ミミズの研究」「蟻の好きな食べ物」「帽子の保温力」
…この頃松柏中は、「創意・工夫する生徒をつくる」という学校教育目標を掲げていたらしく、その目標に沿った実践だと教育委員会が評価しています。
- 【1986年度】 「帽子の中の温度」
…ヘルメットをかぶっての自転車通学生が、夏のむせた頭から着想したとのこと



次号では、技術・家庭科分野で注目された研究を紹介します。